

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391000114		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム「箱根山」(東棟)		
所在地	〒029-2207 岩手県陸前高田市小友町字猪森77		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	令和4年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人のその人らしさを大切に生活を送れるような施設作りに取り組んでいる。リビングなどに床暖房、全居室にエアコンを設置しており、とても暖かく、全面バリアフリーで安心して過ごせるようになっている。また、高台に位置しておりリビングから見える田園風景はすばらしく快適に過ごせる環境が整っている。法人の医療・福祉に関する総合的なバックアップがあり、定期的な研修会やeラーニングを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

陸前高田市の東部にあたる温暖な広田半島に位置し、東日本大震災での浸水区域外の高台に事業所は開設されている。線対称に配置された中ほどにある東西ユニットのリビングからは、四季折々の広々とした田園風景を見渡すことができ、快適に過ごせる事業所の顔にもなっている。大船渡市に本部を置く医療法人の陸前高田施設として、医療と介護の密接な連携の下で運営され、特に、先発のグループホームとは、理念を一にして歩調を合わせた運営を指向し、さらに市外のグループホームを含めた3事業所で定期的に情報交換等の場を設けながら、よりよい介護の実践に努めている。利用者の介護に関する職員の意見・提案は、「まず1週間試しにやってみよう」をモットーとし、介護サービスと職員のモチベーションの向上にしっかりと寄与している。、トイレ備え付けのコールボタンで扉の外で待つ職員に知らせる仕組みを作り、ちょっとしたハードの工夫により利用者のプライバシーを確保する排泄介助を実現している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに事業所の基本理念を掲示し、その理念を職員間で共有している。また、新職員が入ってきた際にはその都度、基本理念を説明し日々のケアで意識してもらうようにしている。	気仙地域を中心に展開する医療法人の高田施設として、開設当時から先発のグループホーム金山と歩調を合わせた運営を指向してきた。そのため理念も金山と同一のものとし、目指すところを共有しながら、職員は日々の介護を通じ、理念に掲げる「ゆっくり」「いっしょに」「たのしみながら」の体現に尽力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育所の散歩コースとなっており、毎月保育所だよりを届けに来てくれるなど交流を図っていたが、現在はコロナウイルス感染防止の為遠くから手を振る程度の交流となっている。	震災により周囲の住宅は高台に移転し、ご近所は隣家だけのところにコロナ禍で、地域との人的交流は中断状態になっている。それでも、お天気と相談して事業所敷地を散歩コースとしてくれている近隣の保育所の園児は、利用者と地域との絆の象徴になっている。数年ぶりに開催される小友地区の町民文化祭への出品案内が届いたばかりとのことであった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生のふれあい体験や慰問の受け入れなどを通して、認知症の人の理解や支援の方法を発信していたが、現在はコロナウイルス感染防止の為出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、2ヶ月に一回の運営推進会議は書面開催で行っている。小学校や保育所のコロナウイルス発生状況などにより交流の仕方の変更や近隣の交通事故情報などにより運転の注意喚起に活かしている。	コロナ禍のため、令和2年度の途中から書面開催とし、その都度委員を訪問し資料を届けながら事業所の様子を報告している。委員は有識者、1年交代の家族代表、住民代表の自治会長と隣人、小学校長、保育所長、駐在所、消防本部、市担当課と、考えられる各分野の関係者で構成されている。現状、書面会議が2年以上も続き、一堂に介しての意見交換が出来ないため、委員の間で会議そのものに対する意義が希薄になってきているのではとの危惧を管理者は有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会に参加しているほかに、市担当課職員や生活保護の担当職員と直接市役所へ出向き、相談や報告、メールのやり取り等をし連携を図っている。	市とは、毎月の待機者の報告、2ヵ月おきの運営推進会議資料の持参、随時の生活保護担当者の来訪と、定期的又は随時に情報の交換を行っている。市が応援している市内の医療関係者、介護関係者の有志で組織する「在宅療養を支える会」からは、「チーム気仙の会」の一員として、年に数回の研修会の案内をいただき、市内関係者との情報交換の場ともなっている。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設・法人の研修会への参加、eラーニングによる学習やスタッフミーティングと一緒に身体拘束の事例などを話しあっている。玄関の施錠は夜間以外はせず開放している。	開設時に身体拘束ゼロ宣言を行い、虐待防止と併せ法人主催の研修を直接又は動画で職員全員が年2回受講している。また、毎月のスタッフミーティングでは、介護の在り方を話し合う中で、身体拘束については必ず盛り込んでいる。職員と利用者との相性の善し悪しがスピーチロックに繋がることも考慮し、居室担当は柔軟に調整している。居室でのセンサーを東棟で2人、西棟で3人が家族の了解を得て使用している。	グループホーム運営基準で高齢者虐待防止の措置が令和6年4月から求められることに呼応して、身体拘束と虐待の防止に関する事業所の方針等を重要事項説明書に登載する方法などの方針を採り、入居時に利用者・家族に説明することについて、検討することが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃から入居者の尊厳を守り、ともに支え合っていく事が虐待の防止に繋がると考えている。法人内の虐待防止の研修への参加や虐待防止のパンフレットや資料などを閲覧するように職員に促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットや資料などを閲覧するように職員に促している。実際に成年後見人制度を利用している入居者もおり後見人と連携している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者、家族が不安に思っていることや疑問に思っている事を伺って、わかりやすく説明し不安解消に努めている。その都度不安や疑問などがあれば再度丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人のホームページの「問い合わせ」で意見・要望を伝える事ができ、また面会時やご家族からの電話があった際などでもご家族から意見を聞くようにしている。	あらゆる機会を捉えて家族の意見、要望の把握に努めているが、家族からの反応はない。現段階では、意見表明の機会を増やそうと設定した法人ホームページからの投稿もない。両管理者とも、家族の一番の願いは早く以前のように面会したいことと理解し、必ず来るその日のためにも、その人らしさを大切に毎日を日々送っていただけるよう、職員と一緒にあってより良い介護を追求している。	

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや毎月開催しているスタッフミーティングや年一回の個人面談等で各職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	職員意見の把握の一番の機会は、毎月のスタッフミーティングである。予算が伴うものは法人の判断が必要だが、利用者の介護に関する意見・提案は、「まず1週間試しにやってみよう」とし、職員意見を取り上げ具体化する姿勢を大切にしている。職員共通の悩みである腰痛対策のため、法人で用意した収集車へのゴミ積載時に用いている階段は、職員の提案を具体化したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ノー残業デーの設定や産休・育休などがとりやすい環境に努めている。また介護福祉士などの国家資格を取得した場合に給与や賞与の支給額に反映される仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行われる定期的な研修会への参加やeラーニングによる学習。認知症介護実践者研修などに参加させ、その研修の報告を行い情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染対策の為に研修の機会は減ったが、県の地域密着型サービス協会の研修会や沿岸南ブロック定例会に参加し、その中で他のホームの職員との意見交換を行いサービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前までの関係機関からの情報やホームに見学に来た時など、ご本人やご家族の希望や訴えを傾聴し、その中で何が必要で、どうして欲しいのか、スタッフ間で話し合い、安心して過ごせるようにコミュニケーションを図り、不安を取り除き信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族と面談をしご家族の不安な事や要望を傾聴し対応している。サービス開始後もご家族受診介助時やホーム受診介助結果報告の際に定期的にコミュニケーションを図り不安や要望を傾聴し対応している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に実態調査を行っている。また居宅ケアマネの情報を基にご本人・ご家族が必要としているサービスを理解・把握し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームを自宅と捉え、一人一人の生活感や個性に応じた家事や野菜作り、おやつ作りなどを職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者から連絡表や面会時ご本人の生活の様子、健康状態、行事での様子を報告し、可能なご家族には病院受診をお願いし入居者の健康状態を共有・把握し関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者についてはスタッフが把握出来るよう本人との関係を記録している。又、ドライブで地元の景色を見たり、地元の新聞から話題を提供し地域を思い出して頂く工夫をしている。	利用者の生活歴等は、センター方式を活用して入居時から整理、共有し、介護に活かしている。利用者の平均年齢は88.6歳と年々上昇し、馴染みの人は家族、親族に限られてきている。所謂「故郷訪問」のドライブでは、預っている鍵を使っかけて暮らしていた自宅の中を一緒に見てきたり、当時楽しんだ懐かしい祭りの写真が掲載された地元紙を手元に置いてあげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者に家事等を分担して行って頂くことで、入居者間の関わりが見られている。利用者同士の関わりが難しい時は、職員が間に入りトラブルを未然に防いでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて連絡等を行うなど、必要に応じてフォローアップを出来るように努めている。個人情報に配慮しながら、外部であった際には挨拶や会話を持つ機会がある。		

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の実態調査や入居時にご家族に生活歴を伺い、それを基にしながら入居者からも情報を得て意向の把握に努めている。困難な場合は表情を見極め検討している。	90歳代の2人を除き自分の意思を言葉で伝えることができ、お手伝いも同様に大半の利用者は、我先にと食事の手伝いをしている。チラシ広告やテレビから、これを食べたいとの欲求が生まれてくると、管理者は観察している。干し柿づくりは利用者の得意とする出番で、職員に柿とりをせがみ、利用者は生活の一部として、専用の道具を使って皮むきに余念がない。今年も1間半程度の干柿の簾が秋の日を浴びていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家庭などを訪問して生活の様子をお伺いしている。ご本人やご家族、ケアマネジャーからの情報を集めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察を行い、日々の記録にも努め、職員間で周知徹底するようにしている事で、小さな変化にも気付くように努めている。定期的に看護師に健康チェックをしてもらい、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日常生活での言動や意向を大切にしながら、ご家族やご本人の希望を尊重し介護計画を作成している。毎月のモニタリングにて現状の把握と介護計画へ反映させている。	介護計画の見直しは、居室担当者による毎月のモニタリングを経た計画作成担当者作成の案を、全職員参加のサービス担当者会議で話し合って決定している。介護計画に理学療法士による身体状況等へのコメントを記載する評価を取り入れたため、今回から3か月毎の見直しに改めたところである。介護計画には、栄養士、看護師、歯科衛生士の助言も盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言葉や活動状況を記録や申し送り、スタッフミーティング等で確認しながら、介護計画の見直しを図っている。計画を実践しながらも職員間で情報の確認をしていき、ケアの向上を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望をお伺いし外出を勧めている。買い物の代行や通院介助などもご家族の状況に応じて行っている。		

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常であれば、小学校の学習発表会の見学など地域の方々との交流に努めているが、コロナウイルス流行により交流は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望されるかかりつけ医に受診している。受診の際には、職員対応とご協力を頂けるご家族には、経過報告を記載した受診連絡表をご持参頂き、通院して頂いている。	利用者の半数は、協力医療機関の訪問診療を受診し、他の利用者は、家族の付き添いで入居前からのかかりつけ医に通院している。整形外科、皮膚科等の専門科を受診している利用者もいる。両ユニットともほぼ同一様式の受診連絡表を付き添いの家族に託し、必要に応じ医師からコメントを付して戻してもらっている。月1回の歯科衛生士による歯科保健の対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が健康指導を行っている。体調不良時や緊急時など相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院先へ情報を伝え退院時に病院から情報を頂いている。定期的にご家族にも連絡し状態の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良やADLの低下が著しい場合などは早期にご本人・ご家族と終末期について話し合いを持ち、情報の共有をしている。母体である老人保健施設やクリニックへの入所・入院を希望する方が多く、相談員と連絡を取り合う事も多い。	終末期の相談は、ある程度状態が進んだ段階で家族と行っている。管理者やリーダー的立場にある職員は、全員老人保健施設の勤務歴があり、看取りを幾度となく経験し事業所の知識、経験の源となっている。医療法人の運営であるため、医療提供体制に遺漏はなく、家族が希望すれば事業所での看取りも可能だが、より体制が整った老人保健施設への住み替えやクリニック入院を希望する利用者・家族がほとんどである。	

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えてある連絡ノートの確認や手順を確認し早急に対応できるようにしている。訪問看護との連携し指導を受けて実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼間・夜間を想定し火災発生時の避難訓練を行っている。又、運営推進会議などにて地域、消防、ご家族との関係性を深め協力を求めている。	想定される災害を火災、津波としている。発災時に法人全職員に通報できるシステムが既に稼働しており、5分程度で駆けつける職員も5名程在籍している。火災発生時の避難体制に大きな問題はないが、津波災害に関しては、東日本大震災での浸水区域外の高台にあるとはいえ、一次避難場所についての結論は出ていない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや人格の尊重に心がけている。定期的に接遇の勉強会に参加して、対応の仕方・言葉使い話し方・気遣いなど相手を尊重した接し方を勉強している。	毎年法人主催の接遇研修を受講し、常に新たな気持ちで言葉遣いを意識した介護にあたっている。利用者の役割には「自分から進んで」のお手伝いとしている。排泄介助では、備え付けのコールボタンで廊下で待つ職員に知らせることが出来るよう工夫しており、これにより扉を閉めて、利用者のプライバシーを確保した排泄介助を実現している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の思いを傾聴し、共鳴できる関係を心掛けている。否定せず思いに寄り添えるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や時間時間での作業とならないように、利用者の本人のペースでの生活が出来るように、心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長くに渡ってなじみの理髪店に年4回程来て頂いて、ご本人の希望に沿ったカットにして頂いている。個々の入居者の希望にそった服装にして頂いている。		

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が感じられる様な旬な食材を取り入れたメニューを提供し食べる楽しみを持って頂いている。出来る入居者には、食器洗いやテーブル拭きなどの後片付けをお願いしている。	職員が交代で1週間分の両ユニット共通の献立を立てている。買い物は近くのスーパー、調理は交代でそれぞれのユニット毎に行っている。家庭菜園で育てた夏野菜も食卓に載せ、彩りを工夫した食事としている。利用者は、春のお花見のお弁当や夏の流しソーメン、BBQよりもお彼岸のおはぎに人気があるとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事・水分摂取量の把握に努め、個々に合わせ刻み食や水分にトロミを付けて提供している。水分や食事摂取量が足りない方には、ゼリーや補助食品などで対応している。栄養バランスのよい食事を作る為に管理栄養士に相談する事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士と連携を取り、毎食後うがい、義歯洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。自立出来る方には声掛けを行い口腔ケアを促している。本人が出来ない場合職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しトイレに行きたい時の行動を見守り、一人で行けない方には声掛け、誘導を行い、身体状況に応じた介助を行っている。	自分の意思でトイレに立つ人は、東棟で7人、西棟で5人いる。両棟合わせて昼夜とも布パンが4人、リハビリパンツにパット使用が14人となっている。夜間のトイレ誘導は西棟の2人だけで、他は排泄時の見守りとしている。現在、リハビリパンツから布パンツに改善まじかな利用者が1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や乳製品の提供、水分を増やす、飲み物にオリゴ糖を入れる等便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態に合わせて出来るだけ入浴されるように配慮している。拒否のある時は無理せず時間帯や曜日を変更するなど個々のペースに合わせた支援をしている。又、季節に合わせた菖蒲湯やゆず湯等を行って楽しめるようにしている。	浴室は、両ユニット共通の浴室が1カ所であるため、東棟が火・木・土、西棟が月・水・金を原則とし、1日午前・午後を分け、1人30分以上かけてゆったりと6人ずつ入浴している。開設時から、浴槽のお湯は一人一人新しいものに入れ換え、着替えは職員と一緒に選び、入浴前には血圧等を測定し、お風呂場では皮膚の異常をチェックしている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを理解し、プライベートな時間を穏やかに過ごせるように支援している。疲れが見られる時や昼食後に希望する場合はベッドに横になって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が変更された場合は伝達周知し、服薬後変化があった場合は、訪問看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月職員が行事や創作活動、おやつ作りを考え施設内でも気分転換を図っている。又、個々の入居者の生活歴、好きな事、能力を把握し、それを活かして掃除や編み物などを手伝って頂いたり、やりがいのある生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、制限はあるが感染対策を行い人混みを避けて外出出来るように支援している。天気の良い日には敷地内を散歩したり、流しそうめんやバーベキュー、バスハイクなど外での行事を計画し外へ出られる機会を設けている。ご家族に協力して頂き病院受診へ行く事もある。	コロナ禍で外出が制限される中、お天気が良ければ事業所敷地の散歩や玄関前のベンチでの外気浴は欠かせない貴重な日課だが、秋も深くなってきて、利用者は室内が良くなってきている。そのため、室内での軽運動や10時のお茶の時間前の体操はますます貴重になってきている。今年も季節ごとのドライブに出掛けており、先日は矢作地区へ紅葉狩りに行って来たばかりである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に職員が管理とさせて頂いている。ご本人から欲しい物や必要な物などの要望があれば、一緒に買いに行くこともあったが現在はコロナウイルス感染防止対策の為出来ない。ご家族には毎月送付する連絡表にて出入金を把握して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族の協力を仰ぎ、ご本人の協力があれば、電話や手紙のやりとりが出来るように支援している。お正月にはホームから毎年年賀状を送っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や生活感を感じて頂けるように、リビングや廊下、入居者居室の入り口などに壁面飾りを飾ったり(リビングは一ヶ月に一回飾り付けを変えている)している。温度・湿度はエアコンで管理し、適切な環境を保っている。	リビングの大きなサッシ戸からは、四季折々の広々とした田園風景が見渡すことができる。壁面には季節を感じさせる紅葉の貼り絵や写真、ぬり絵等が飾っており、真中にある大きなテーブルでは、利用者が思い思いに寛いでいる。広い廊下の天窓から差し込む光と和風の電灯シェードが適度な落ち着いた明るさをもたらしている。空調は、床暖とエアコン、加湿器による空調は快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をする席以外は入居者の意思にまかせ自由にされている。好きなソファの席でテレビを観たり、入居者同士や職員とレクをしたり、会話を楽しんだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前より使っていた物、なじみのある物を積極的に居室内に取り入れ、入居者が少しでも居心地良く過ごせるように工夫している。家族写真や入居者が作成した作品を飾り、生活感を感じられるよう努めている。	居室入口の表札の下面にそれぞれ思い思いの景色の壁面飾りを吊している。トイレ付の居室はそれぞれのユニットに4室ずつあり、どの居室も使い慣れた置き時計・椅子・家族写真・カレンダーなどが持ち込まれ、どの居室も和風の電灯シェードが居室の柔らかさを引き立てている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており安全面を考慮した作りとなっている。職員も入居者の状態に合わせて付き添いや手引き歩行を行うなど、入居者一人一人に合わせた対応をしている。又、入居者に役割を持って頂き、職員と一緒に家事をする等「出来る事」を活かせるように配慮している。		